

第四回沿神宮體育大會報告書



第四回明治神宮體育大會目次

(一) 明治神宮體育會協議錄

未解決に終つた學生參加問題	一
明治神宮體育會評議員議事錄	三
規 約	九
明治神宮體育會役員一覽	一五
第四回明治神宮體育大會開かる	一九
祝 辭	二〇
宣 誓 文	二三
第四回明治神宮體育大會收支一覽	二四
各競技日割其他	二七—三六終

(二) 各競技部の準備計畫及經過

射 擊	一
-----	---

弓道部	五
拳闘部	二
ヴァレーボール部	三
ホッケー部	六
卓球部	四
水上競技部	五
野球部	七
スキー部	八
マツスゲーム部	九
漕艇部	一〇
庭球部	一五
馬術部	一七
相撲部	二九
陸上競技部	三三
柔道部	三三
剣道部	三五

(三) 第四回明治神宮體育大會競技の成績と概評

籠球部	一四
アツソシエーション蹴球部	一四
庭球部	一
射撃部	一
水泳部	三
マスゲーム部	三
アツソシエーション蹴球部	三
スキー部	九
ラグビー蹴球部	一〇
相撲部	一〇
陸上競技部	一四
拳闘部	一七
柔道部	一九
漕艇部	二六

劍道部	三〇二
野球部	三一九
籠球部	三一九
ホッケー部	三二七
ヴァレーボール部	三六一
馬術部	三六三
卓球部	三六六
弓道部	(以上)

明治神宮體育會協議記錄

野 球 競 技



部 三 眞 川 石



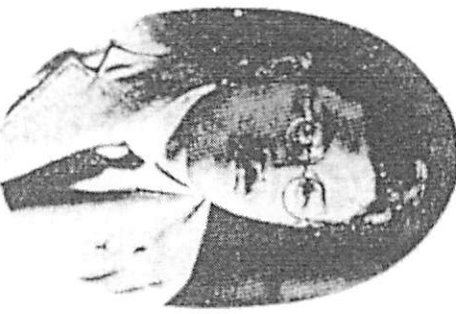
部 大 眞 岡 池



部 大 眞 岡 池



尖 郭 上 村



常 昌 木 宮



部 大 眞 岡 池



部 大 眞 岡 池



部 大 眞 岡 池



部 大 眞 岡 池

六大學新人、中等學校、社會人の三大野球戦は十月三十日より神宮、早大兩球場にて行はれ最も多數の見物を集めた、今年より新に加入されたる社會人戦は關東關西のビッグアップにて試合は十一回に及び兩軍ノイランのまよドロングゲームとなる壯觀さを示した、先づ三十日午前八時五十五分から阪谷會長の始球式にて下關商業對靜岡中學の試合によつて開かる。

中 等 學 校

第 一 回 戦

靜 中 2 | 0 下 關

三十日午前神宮球場で審判・藤田・森岡兩氏の下に行はれた。靜中上野はスピードこそないがインプロとアウトシュートを交へて、インナーリク良く下關大田は大きなアウトカインに威力を發揮して最初は魁々相摩する試合であつたが、靜中次第に當り良く四、六回にチャンスを抑んで一寸ヒヤヒヤさせたが物にならなかつた、而して遂にラッキーセメンを巧に處理した、本間

二壘の暴投に生き田中三振後築地遊撃のトンネルに出たのが下關の禍となつた、石川第一球を遊撃越安打とすれば寺田又右衛門へ安打して本間生還、田中の二匍で築地も還へる下關は九回本郷安打して田村に封殺され福島又安打に續いたか田村に代つたP、R中島が二壘牽制に刺されて折角の機会を逸し二對零に靜中勝つ。

關 島坂田部村間下戸地
〔下〕川藤太木田福武三唐
(遊) (投) (捕) (一) (左) (中) (三) (右)

打數三一
安打一
犠打〇
盜塁八
三球二
失策四

中 地川田野健間木間中
〔靜〕築石寺上田中風鈴本田
(遊) (三) (捕) (投) (中) (一) (二) (右) (左)

打數三六
安打三
犠打一
盜塁一
三球一
失策一

桐生3——2早實

桐生中學對早實は午前十時卅五分から開始(神宮球場、審判原田、大川、西川)

一回 桐生のスタートよく藍原四球で藤生の犠打に送られたが阿部兄の安打に三壘突進を躊躇して刺され阿部弟又安打に被いたが時田三振して事なく、早實岩瀬遊撃安打福島四球の後澤田小林の犠打が被いて岩瀬生還。四回 早實一死で小林中左間へ三

壘打したが小川スクキズを失して小林本三間に挟まれた、小川四球で二盗し加藤の二壘越安打で小川生還一點を加へた。七回

桐生時田遊二間を抜いて小野田に送られ多田右難飛に終つたが彦部は三壘を襲ひ、その一壘高投で一壘二壘へと進みその間に

時田生還。八回 桐生藤生四球阿部兄のバンドは内野安打となり阿部弟四球で無死滿壘の好機を迎へ時田2——3で三振小野

田バンドを打上たが多田四球を選んで藤生押出されて生還。九回 桐生加藤は遊撃高投に一壘二壘へ藍原の一壘犠打で三壘を

占めたが藤生スクキズに出ると見て加藤離壘捕手の牽制に刺さる。早實加藤遊三間を抜く安打に出で捕手の一壘牽制悪投と佐

伯の投匍に三壘まで達したが後援を失ふ。十二回迄事なく十三回桐生一死後時田死球。小野口四球に出で多田左飛に二死とな

りしも早實の投手小林は疲れて彦部加藤に四球を續け時田押し出して一點を拾ひ早實其の裏に攻めしも入らず三對二にて桐生

中學勝つ。此の試合は兩軍とも體格も秀れ元氣であつた、桐生の投手阿部弟はスピードもあればカーブもあり、而も兄弟が心

を合せて早實の攻撃を避けてゐたが早實はその球道の定まらざる中に一點をリードしそのまゝ六回迄持ちながら桐生の力強き

バッティングは之を覆した、もしも桐生が更に慎重に試合を進めたならかくエキストラインニングに入らずして止めを刺した

であらう。補回試合に入つてから早實は十一、二回に無死で走者を出しながら少しあせつて此機を逸し遂に小林投手の疲れの

爲め桐生に死命を制せられた。

[實] 瀬島兄弟
 [早] 岩福
 (遊) 深田
 (右) 小林川藤
 (二) 小加伯
 (中) 佐田弟
 (左) 深田
 (捕) 福田
 (三) 福田
 (一)

三壘打——小林

[生] 原生弟
 [桐] 相部兄
 (右) 阿部田
 (三) 阿部口
 (捕) 時野
 (中) 小野口
 (一) 多田部
 (左) 磯藤
 (二) 加藤
 (遊)

打數四一
 安打三
 犠打二
 盗塁一
 三振一
 四死二
 失策二

打數三六八
 安打三
 犠打三
 盗塁四
 三振一
 四死二
 失策二

松 商3A — 2 神 港

神港商業對松本商業は九時から安部磯雄氏の始球式で開かれた(早大球場、審判牧野、内田)

◇四回 松商矢島遊撃へ安打し佐藤に送られ百瀬の左中間安打に矢島生還。◇七回 神港二死後久保三壘へ安打し壘手の一壘高投と高瀬の中堅三壘打に久保生還。◇九回 神港島右越二壘打に出で西垣内野安打に續き久保の右犠飛に島生還し同点となる。◇十一回 神商島を出したが高瀬外野に退き松商小松遊失に生き上條のバンドを西垣が二壘に悪投し大月のバンドを投手取つたが一壘手壘を空けて無死満塁、中村の直球を久保が落して小松還り三A對二にて松商勝つ。此のチームは何れも良く先づ第一流に押さるゝものであつた。

△三壘打——小松、高瀬。△二壘打——島、百瀬。

[港] 田崎
 (二) 山島
 (右) 垣保
 (中) 瀬崎
 (投) 西久高濱
 (遊) 尾倉
 (左) 尾倉
 (三) 尾倉
 (一) 尾倉
 (捕)

打數三九
 安打二
 犠打二
 三振二
 四死一
 失策四

[商] 村味島藤林瀬松條月
 [松] 中五矢佐小百小上大
 (二) 中五矢佐小百小上大
 (左) 中五矢佐小百小上大
 (中) 中五矢佐小百小上大
 (投) 中五矢佐小百小上大
 (右) 中五矢佐小百小上大
 (捕) 中五矢佐小百小上大
 (一) 中五矢佐小百小上大
 (三) 中五矢佐小百小上大
 (遊) 中五矢佐小百小上大

打數四三
 安打一
 犠打一
 三振一
 四死二
 失策二

愛 商6 — 3 茨 商

(早大球場、安田、長谷川審判) 茨城先攻。

三回 愛知、一死後服部、遊三間へ安打直ちに二盗し、高谷四球に出で重盗し鶴飼の中犠飛で服部生還。横井の遊捕失に高谷生還。三回 茨城二死後佐藤四球川澄三遊間安打に續き中居の右前安打に二者生還。五回 愛知平沼四球勝川に送られ松下の左翼安打に一學生還、大谷四球、水谷中堅に二壘打して松下生還服部右翼大飛球に大谷生還、水谷三壘を占め高谷遊三間安打に水谷も還へる鶴飼三遊間を抜く安打に高谷は三壘に據つたが(茨城塚田プレートに立ち佐藤遊撃に矢島右翼に入る)横井投捕に終る。而し四點をリードして大勢定る。九回 茨城石毛中前に安打し佐藤の投飛落球に石毛二壘に封殺され宇島三振砂押

二盗する間に佐藤生還したが川澄三圃に死して追撃及ばず、遂に六對三で敗る茨城は愛知水谷投手のコントロールの亂れしを觀破し更に策を施せば試合は意外に展開しただらうが餘りに打つ事のみで苦心し力負けがしたやうであつた。

〔茨城〕 押澄居島
(二)砂川中矢島
(捕)塚田山毛
(投右)丸石
(遊投左)佐藤
(一)石毛
(右遊)佐藤
(中)宇島

失策三 盜壘一 三振一 安打六 打數一

〔愛知〕 松川下谷部谷飼井
(遊)平勝松大(中)水服高(捕)鶴
(三)勝松大(左)水服高(捕)鶴
(中)松大(左)水服高(捕)鶴
(左)大水服高(捕)鶴
(投)水服高(捕)鶴
(右)水服高(捕)鶴
(一)高鶴
(捕)鶴
(二)横井

失策二 盜壘四 三振六 安打七 打數二

准決勝戦

愛商七A—二松商

愛知商業對松本商業戦は三十一日午前十時十分から神宮球場で大川、西川兩氏審判の下に行はれた。之れこそ決勝戦にも等しいと云ふので人氣は集まり戦前から大變な景氣である。試合開始前秩父宮殿下には轟轟と見物になつた。

一回 松商先攻中村劈頭左翼の二壘打に出たが五味の遊撃ゴロで三壘に刺され、矢島の投手ゴロで五味も封殺された後矢島は二壘を盗み捕手の悪投で三壘に入つたが佐藤二壘ゴロで入らず、愛商平松遊撃の失策に生き勝川に送られたが事なく二三回も平凡に打過ぎた。四回松商佐藤二壘へ安打し小林のバントは投手の下をくぐつて又安打に好機到来したが松商はスクイズせずして徹頭徹尾打揚げて此機を逸したのは遂に勝利の神に見放されたのであつた、其裏愛商は服部四球で水谷の犠打に送られると高谷又四球を得た、續いて少年鶴飼は高目の球をひつかけて三壘打を放ち服部高谷を並べて生還。横井又中堅前へ安打して鶴飼を本壘に迎へた。これで勝敗は定まつた更に五回愛商松下四球の次大屋二壘打して松下還り、服部の安打と水谷の二壘ゴロで大屋も生還、水谷佐藤兩サウスポーが同じ武器で敵の攻撃を喰止めんとしたのであるが此日水谷のコントロール良きに反し佐藤の肩は亂れ勝ちで此開きを見せたのである。

六回愛商横井勝川共に四球に出て二死後大屋左中間へ三壘打を飛ばして二者生還、松商は七回上條の二壘打ありしも事なく八回更に中村の二壘打も物にならず、九回に入り小林遊撃失に生き百瀬が遊撃の右を抜く安打を放ち、小杉三振後投手暴投に三壘へ進み上條の三壘フライダーチョイスで小林生還、大月中堅へ安打して百瀬も還り、結局七A對二で愛商の大勝に歸した。

◇三壘打——大屋、鶴飼。◇二壘打——大屋、上條、中村。

〔感知商業〕
 (遊)平 松川
 (三)勝 松下
 (中)松 矢部
 (左)大 谷
 (右)服 谷
 (投)水 谷
 (一)高 谷
 (捕)鶴 飼
 (二)横 井

失盜三犠安打
 策球振壘打打數
 二六二一三〇

〔松本商業〕
 (二)中 村
 (左)五 味
 (中)矢 島
 (投)佐 藤
 (右)小 林
 (捕)百 瀨
 (一)小 松
 (三)上 條
 (遊)大 月

失盜三犠安打
 策球振壘打打數
 四一四三〇九七

靜 中三A — 二桐 生

靜岡中學對桐生中學戦は三十一日午前十時十五分から早大球場で藤本森兩氏審判の下に行はれた、三回までは兩軍得點なく四回靜岡寺田遊失に生き上野の二壘を二壘手トンネルして走者三二壘による、田中健三振後風間のバントを三壘手が一壘へ暴投して上野生還、鈴木三振せしも本間の遊匁を加藤落球して風間も還る、田中英遊三間を抜き尙も好望であつたが築地右飛に倒れて終る。而して此回三點を先取して意氣軒昂六回桐生一死後加藤中堅安打に出て磯部の遊匁に封殺されたが阿部弟中堅に安打し磯部三壘から一舉本壘を衝いたが中堅手の好投に刺さる、九回桐生最後の攻撃に入り磯部弟三遊間安打阿部兄四球時田一壘右を抜き安打に無死満壘となり藤生三振したか小野口の二壘を鈴木がトンネルに阿部兄弟生還して二點を奪ひ時田三壘小野口二壘によりて形勢急を告げたが藍原の三壘に時田本壘に憤死し小野田三壘を盗まんとして刺され結局三A對二で桐生惜敗す。

〔桐生中學〕
 (遊)加 藤
 (二)彦 部
 (投)阿部弟
 (捕)阿部兄
 (中)時 田
 (三)藤 生
 (一)小野口
 (右)藍 原
 (左)多 田

失盜四三犠安打
 策壘死振打打數
 三二四三二八

〔靜岡中學〕
 (遊)築 地
 (三)石 門
 (捕)寺 田
 (投)上 野
 (中)田中健
 (一)風 間
 (二)鈴 木
 (右)本 間
 (左)田中英

失盜四三犠安打
 策壘死振打打數
 四〇二〇〇六四

決勝戦

愛商優勝す

二對〇 — 靜中ついに敗退す

靜中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
愛商	0	0	1	0	0	1	0	0	0	A
										2
										0

中學野球は愛知商業と靜岡中で優勝を争ふ事となつた。一日の神宮球場は秋空高く晴れて決勝を飾るにふさはしい日和であるが見物は極めて少くなんとなく熱が上らない。午前十時十分早速繩岡、片田審判の下に靜中先攻。

◇第一回 靜中寺田が遊撃高投で生きたのみ、愛商は平松松下共に遊撃の失に生き大矢は併殺を計らうと一壘へ高投して走者三二壘へ進んだ、而し服部は三球を見逃がして三振したので入らない、◇三回 靜中本間四球築地三壘越安打に出たが石川三振で本田三壘に併殺された愛知平松二匍失勝川のバントは内野安打となり加ふるに投手が高投して平松三壘へ行つたが松下の投匍で本壘に刺された、大矢四球で一死満壘の折服部左犠飛を打つて勝川を生還させ鶴飼四球に又満壘となつたが水谷二匍。

◇五回 靜中風間死球でチャンス到来を告げたが戦法荒くして無駄となつた。◇六回 靜中一死後築地二越安打を放つたが石川三匍寺田二直球に登れて入らず。△愛商服部三壘線へ二壘打を放ち鶴飼も二壘へ安打して二壘へ進み愛商また好機を迎へたが靜中好守し水谷の一匍に野手走者を牽制して服部を本壘に刺し續く二者を孰れも投匍に打ち取つて得點させず。◇七回 靜中無爲。△愛商平松投手頭上へ安打し勝川の犠打に進み松下遊匍野選に二走者生き平松三壘に據れば、大矢右翼犠飛球を放つて平松生還一點を加ふ。◇八回 靜中

一死後本間遊匍失に出たのみ依然振はず。△愛商鶴飼中堅へ安打し水谷三飛の後高谷のゴロを遊撃手後逸して二走者を見たが後援なく靜中最後まで壓迫されて第九回に移る。◇九回 靜中石川投飛寺田二飛に登れ上野二匍失に出たが田中遊匍に登れ結局二A對零で愛知商業優勝す。

上野(靜中)水谷(愛商)共に左投手であるが、前者は大きなインドロツプにシュートを交へ後者はドロツプの他に浮氣味の球と精妙なコントロールを持つて投手戦となつた。愛商の打撃は何れもスムーズな打ち方で上野の球に對し軽く當て、行き六七回を巧く擱んだ靜中はチャンスといふもの殆んどなく三回本間が四球に出て田中がバントを失し五回風間死球に出て兩方變りなかつた愛知は何れも小柄である。勝川三壘が大手柄をなした。

失策	四死	三振	盜壘	犠打	安打	得點	打數
1	0	0	1	0	1	5	5
0	0	2	1	1	3	1	3
0	0	0	0	0	4	0	4
0	1	0	1	0	2	0	2
0	0	0	1	1	8	0	8
1	0	0	0	2	3	0	3
0	0	0	0	0	4	0	4
0	1	0	0	0	4	0	4
1	0	1	0	0	4	0	4
2	2	5	3	3	2	6	32

失策	四死	三振	盜壘	犠打	安打	得點	打數
4	0	1	0	2	4	0	4
1	0	1	0	0	4	0	4
0	0	0	0	0	4	0	4
1	0	0	0	0	2	0	2
0	0	0	0	0	4	0	4
0	1	0	0	0	2	0	2
0	0	0	0	0	3	0	3
0	1	0	0	0	2	0	2
0	0	1	0	0	3	0	3
6	2	3	0	2	0	2	30

△二壘打服部
△併殺鶴飼勝川

昭和四年八月三十日印刷
昭和四年九月一日發行

編輯
人佐

東京市四谷霞ヶ丘日本青年館内
明治神宮體育會

宮 本 昌 常

印刷所

東京市神田區錦町三ノ五
合名會社 太田印刷所

印刷人

同
白 橋 龍 夫